

人類の最前線の叡智はどこから？

本章で初めてNMNについて知った方は、なんと素晴らしい研究なのだろうかと感激されるのではないのでしょうか。では、このような人類社会全体に恩恵をもたらす研究はどこから来るのでしょうか。実は、軍事技術からの応用であることが少なくありません。

そもそも、このNMNに関する研究はオバマ政権の下、NASAのための国家プロジェクトとして採択されました。宇宙空間とはある意味、戦場そのものです。人工衛星を介した情報通信は社会インフラとしても、軍事行動にとっても必要不可欠です。そのような宇宙空間に赴く宇宙飛行士の健康管理は何よりも重要です。

地上ではオゾン層に守られて紫外線の一部しか人間の身体に影響を与えませんが、宇宙空間では紫外線以上に強力な宇宙光線が容赦なく降り注ぎます。当然、DNAの損傷などは地上生活以上に激しく、このDNAの修復機能を求めてNMNが注目されたという背景もあります。

同様に、第12章で登場する幹細胞治療は、戦争を仮定して発達したとも言われています。最前線で負傷した兵士を48時間以内に再び最前線に戻すことができるならば、軍事作戦の立案が大意

く変わってきます。医療が発展する背景には、このような文脈が存在するのをもまた人類社会の事実です。

この章の最後に、私が好きなエピソードを紹介させていただきます。ある国で内戦があり、相手方の生命を奪うためにレーザー技術の開発が研究されていきました。長い内戦の後、研究者たちが会社を創業します。「今度は人間の生命を救うためのレーザー機器をつくりたい」と。資本主義の荒波のなか、多くの困難を乗り越えて現存する唯一の会社がFotona社です。日本国内の医療機関でも採用されています。こういう物語を知っていると、単なる施術の提供が、人間の尊厳を掛けた一連のリレーのようにも感じられます。

学問も機器も技術も、目的に応じて使いこなしてこそ。それらを使いこなすためには「人間の本質」という基礎が何よりも必要なのです。